

電波資源拡大のための研究開発 平成27年度事前評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
小型高速移動体からの大容量高精細映像リアルタイム無線伝送技術の研究開発	H27～29	<ul style="list-style-type: none"> ・小型高速移動体からの大容量高精細映像リアルタイム無線伝送技術は、スポーツイベント以外にも多方面の応用が考えられ、必要な研究開発である。 ・工事車両やロボットなどへの応用はセルラ携帯でも実現できると思われることから、提案者には開発するシステムの優位性を明確にすることを求める必要がある。また、実況中継と工事現場では伝搬環境が全く異なることから、目標の確認においては適用環境を明確にして評価することを求めるべきと考える。 ・有用なシステムであるが、現在周波数の割り当てが無いというのが気にな。使用する周波数帯毎で伝搬特性が異なるので、安易に5GHzと仮決めしないで、必ず使用できる周波数において開発を行うことが、電波利用料の有効利用につながると考える。 	3.9
テラヘルツ無線信号の広帯域・高感度測定技術の研究開発	H27～30	<ul style="list-style-type: none"> ・100～300GHz 対を精度良く測定する技術の開発は重要であるが、予算はやや大きいように思える。 ・局発、送受信増幅器、直交変復調器などの設計目標が必ずしも明確でない。 ・140GHz～300GHz帯を対象とした研究開発である。テラヘルツの研究は様々な分野で必要とされ、研究開発が進められている。今回の提案の主たる使用目的を明らかにすること。 	3.6
不要電波の広帯域化に対応した電波環境改善技術の研究開発	H27～30	<ul style="list-style-type: none"> ・一般論として不要電波の低減に資する技術開発は重要である。しかし、多岐にわたる技術開発となるので、個々のテーマ別に目標設定をより精査して示す必要がある。 ・フィルタリング技術開発も重要だが、その性能を実環境で評価するうえで、国際的に認められる測定環境技術の確立が必要と考える。テストベンチの開発においてはCISPR 規格などを十分配慮することを求めている。 ・重要な技術であり、電波利用料研究開発のテーマとして最も相応しいものの一つだが、達成目標の記述が最も難しいテーマの一つでもある。このようなテーマの場合、できるだけ多くの機関(産業界、大学、国・県の機関)が参加したコンソーシアム研究開発形態をとると良いと考える。 	3.8
第5世代移動通信システム実現に向けた研究開発	H27～30	<ul style="list-style-type: none"> ・大いに期待されるテーマであり、これまでのセルラ携帯無線の国際標準化における我が国の貢献を継続し、開発した技術を標準化に反映させるためにもぜひ進めていただきたい。3GPPのようにコンソーシアムを作ることが必要で、提案者にはその主要メンバとなることを求めている。 ・第5世代移動通信方式は第四世代移動通信方式より、更にサービスが多様化し技術も高度化するため、重点課題の優先順位をつけて、どの点を日本として強化するかの議論が必要である。 ・研究開発の必要性などに問題はない。無線通信技術の革新で5G の要求条件を数値で述べているが、それをどうやって実現するかの手段を提案に求めるべき。 	4.3